

設立から60年、 1000人を超える 建具専門職を養成



東京建具高等職業訓練校

設置・運営●東京建具協同組合
所在地●東京都千代田区神田東松下町42
訓練課程●木材加工系木工科（普通課程）
訓練期間●2年



建具とは、「戸、障子、襖」など屋
内に取りつけて、開口部をふさいだり
開けたりする道具で、その建具を製作
する建具師を養成するのが東京建具高
等職業訓練校である。

同校は、東京建具協同組合が母体と
なり昭和31年に設立され、昭和33年に
東京都知事の認可を受けて認定訓練校
となった。その後、昭和45年に名称を
「東京建具高等職業訓練校」と変更し、
現在に至っている。

J R 神田駅から徒歩3分のところに
ある同校を訪ねた。

基本理念

事務局長の稲村末松氏は、同校の教
育訓練の理念について「建具師とは、
もともと細工師と呼ばれ、かんや、
のみなどを用いて手加工するスペシャ
リストです。そのスペシャリストを養
成するため、実技では2年間を通して
基礎訓練を行います。マニュアルでは
なく、実学重視の指導です。手加工を
中心にその伝統を徹底して学び、2年
間の訓練で、高度な猫間（雪見）障子
が作れるようになります。古の知恵を
真摯に受け止めたうえで、新しいも
のを作るという理念で訓練をしてい
ます」と語る。設立から本年度で60年。
1000人を超える建具のプロフェッ
ショナルを全国に送り出している。

教育・訓練の特徴

「プロフェッショナルの教育」を貫

くため、講師や指導員にプロ中のプロ
が多い。

「例えば刃物の講義は、東京で代々
続く刃物店の社長が詳細に知識と知恵
を伝授する、といった具合です」（稲
村事務局長）。

また60年の歴史があるので、親子二
代にわたる修了生も増えている。

「教育・訓練の重要性を認識してい
る親が、子どもを訓練校に送り出すと
いう良い循環が形成されています」（稲
村事務局長）

現在、全国で唯一の建具訓練校と
なっており、他県からの訓練生も受け
入れている。入校資格が「東京建具協
同組合加盟事業所の従業員」となっ
ているため、同校では他県からの入校希
望者に対して、同組合加盟事業所の紹
介も行っている。

修了者（技能照査試験合格者）には、
東京都知事より建具製作技能士補が交
付され、2級技能士試験において学科
試験が免除になる。

訓練生の声

現役訓練生の亀谷麻美さんは、入校
の動機について「私は、大学を卒業す
る際、何かモノを製作するという職人
の世界に入りたかったのですが、親に
反対されて一般企業に就職しました。
しかしどうしても憧れを捨てきれず4
年で退職。その後のヨーロッパ旅行で
家具や建具に魅せられて、帰国後、木
工を学びたいと思うようになり、その

とき東京建具高等職業訓練校の存在を
知りました」

まず職業能力開発センターの木工技
術科で木工の基礎を学び、株式会社山
二建具に採用され、同時に訓練校にも
入校した。

訓練校での教育・訓練については、
「現役の建具職人の先生方に直接、疑
問をおつけることができるのはとても
ありがたいと思いますし、まさに、生
きた授業を受けているのだと実感し
ます」

将来の目標は「訓練校で建具の知識・
技能をしっかりと学んで、速く美しい
仕事のできる職人を目指し、ゆくゆく
は古い建具や家具の修繕などもこなせ
るよう腕を磨き、徐々に世の中に残る
ようなものを作っていきたいです」と
語る。

訓練校の使命

稲村事務局長は、「この神田の地
で、現代の名工・友國三郎氏（本誌
2016年No.2「しごとインタビュー」
参照）をはじめとする最高の講師陣に
より、教育訓練を行っています。私た
ちは、訓練生に確かな技術を身につけ
てもらい、わが国の建設業の発展に貢
献してほしいと思っています」

また、行政に対しては、「厳しい環
境の中で、懸命にがんばっている中小
企業の実態を知っていただき、認定訓
練に対するさらなる支援も強くお願い
したいですね」と語った。